

すそのん報道提供資料

令和6年8月29日



裾野市マスコットキャラクター

市議会が市長へ政策提言書を提出 登校に不安を抱える児童生徒の社会的自立を支援する体制 構築への提言

市議会が市長に政策提言書を提出しました。

と き／8月29日(木) 11時15分～11時30分

ところ／市役所5階 議場

内 容／要望書の全文は別紙のとおり

問合せ／裾野市 議会事務局 担当：永田 栄作

Tel.055-995-1839



担当

裾野市 議会事務局
電話 055-995-1839
担当課長：湯山 博之
担当者：永田 栄作

裾野市長 村田 悠 様
裾野市教育長 風間 忠純 様

裾野市議会 議長 中村 純也

登校に不安を抱える児童生徒の社会的自立を支援する体制構築への提言について

裾野市が不登校対策として、すそのCOCOLOプランを策定し、誰一人取り残されない学びの保障に向けた環境づくりに取り組んでいることには大きな期待が寄せられている。特に、教室に入ることができない児童生徒の居場所を、余裕教室の活用で創出したことは、子どもの多様な学びの場の確保として一步踏み込んだ対応であると評価している。

一方で、居場所の確保とは裏腹に関わりとして必要となる支援については教員の兼任対応が多く、子どもたちにとって相談相手として、あるいは一貫性ある支援の享受には程遠い状態であり、また支援者においても、関係者間でアセスメントや支援方法等を共有できる仕組みの必要性が求められている。

登校に不安を抱える児童生徒は、心理的、身体的、情緒的な影響を与えた社会的背景を要因とする課題を複合的に抱えていることが多く、個人に合わせた支援には多岐にわたる知識や技術が必要であるとされている。教員は、個性や能力を發揮できるよう教育方法を工夫することに余念はないが、対応の難しい個別支援について十分な知識や技術を持ち得ておらず、苦悩している実態がある。

不登校をきっかけに社会との関りに距離をおき始めた子どもは、成人になってからも家に引き籠ってしまうケースも多く、早期段階から多面的かつ継続的に支援することが重要である。児童生徒の社会的自立に向け、多様な学びの場を保障するため、不足する専門的な知識や技術を補完し、さらにはその支援方法を共有する仕組みを構築すべく、以下提言する。

1. 子どもとの関わりが深い学校が、個人に合わせた適切な支援を提供できるよう、医療や福祉など専門的知見を有する機関とのコンサルテーションの仕組みを導入すること
2. 登校に不安を抱える児童生徒に対して一貫性のある支援ができるよう、アセスメントや支援方法などを、教育、医療、福祉の各機関で共有、蓄積できる仕組みを構築すること